

説 教

聖日礼拝 北浜チャーチ
2021年9月5日(日)
黒田 禎一郎

主 題：「視点の置き所が大切」
—信仰の姿勢—

テキスト：第2ペテロの手紙2章10節b～14節

はじめに

- ・しばらく前のことですが、私は北海道洞爺湖の大自然の中を散策していました。静かな湖畔を歩いていたとき、道端に咲いていた野草に目が止まりました。普段、ほとんど注目しない私ですが、たいへん驚きました。どの野草も精一杯、美しく咲いている姿が鮮明でした。神の創造の偉大さです。
- ・その時、みことばが浮かびました。マタイ福音書6章
6:29 栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。
- ・思わずカメラシャッターを切りました。イエスは、あのシバの女王は賢者ソロモン王を訪ねましたが、「栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。」と言われました。何度も読み知っている聖句です。そして、野の花もこれまで何度も見てきました。
- ・しかし、これほど感動を覚えたことはありませんでした。なぜでしょうか？それは、心静ませる中ではじめて見えた奥義でした。それまで、私の視線はそこに向いていませんでした。「視点の置き所が大切」です。
- ・皆さん。私たちが聖書を読んでいく過程においても大切なことがあります。それは視点の置き所です。聖歌500番「みことばなる」はご存じでしょうか。1節のみことばを味わってみましょう。
「みことばなる」
み言葉なる光のうち 主とともに歩まば
行く道すじ 照らしたまわん より頼むわれらに
げに主は より頼みて
従ごう者を恵みたまわん
- ・聖歌500番の作詞者は、聖書への視点をこのように持っていた人でした。聖書はどんな書物でしょうか。次の3点で聖書のみことばは幸いです。：
 - ① 私たちが見つめるべき大切な視点が示されている
 - ② 私たちを愛してくださる神が証しされている
 - ③ 暗闇でさまよう者に生ける希望が表されている

- ・ 一見、難しく思えるみことばも、諦めずに読み続けると、今の私に必要なメッセージが聞こえてくるはず。そのような意味でも、忍耐を働かせてみことばに向かい続けましょう。
- ・ ところが、ペテロは第2の手紙に入り、聖書を正しく見ていない異端について語っています。それは当時の教会が直面した深刻な問題でした。そこで前回につづき異端について、主のみ声を聞いてまいりましょう。 2点

大切なポイント

1. 異端者の実像

2:1 しかし、御民の中には偽預言者も出ました。同じように、あなたがたの中にも偽教師が現れます。彼らは、滅びをもたらす異端をひそかに持ち込むようになります。自分たちを買い取ってくださった主さえも否定し、自分たちの身に速やかな滅びを招くのです。

2:2 また、多くの者が彼らの放縦に倣い、彼らのせいで真理の道が悪く言われることになります。

1) 現代の異端者

- ・ 当時、異端の教えに先導された人々は一人や二人というレベルではなく、かなりの人数がいたと思われます。異端に従った人たちは、その教えともにその生き方に倣うようになりました。

{例話} 韓国の異端

- ・ 韓国のコロナ禍で、初めの頃大問題となったキリスト教を名乗る宗教団体(異端)があります。それは大邱の「新天地イエス教会」です。教祖李萬熙(イ・マンヒ)氏は、自分こそ再臨のキリストであると宣言し、工作員を既成の教会に潜入させているといいます。
- ・ 「新天地イエス教会」は1984年に創立され、2008年には全世界に95の教会が設立され、信徒数は20万人を越えました。東京にも「新天地イエス教会」の活動拠点(早稲田大学近く)があり、信者数は数万にもなっているとされています。2019年には中国武漢に神殿を建設しました。
- ・ 工作員は正体を隠して教会に潜入し、長い年月をかけて牧師の信頼を獲得するよう教育されています。気がつくと、仲間を増やし、役員会を掌握し、やがて牧師を解任し、教会そのものを乗っ取ってしまいます。
- ・ また、だいぶ前に話題となった統一教会(Unification church, or Moon sect)と、そこから分かれた「摂理」(Providence)という異端グループの活動は、今でも表には出ず地下に潜り、その活動を続けていると思われる(大阪です)。

- このような現在の現状を見るならば、ペテロがこの手紙で危機感を募らせ、必死に訴えたことは、決して私たちと無関係ではないと気づかされます。決して遠い昔の問題ではありません。

2) 異端者の実像

- では、ペテロは当時の異端に対してどのように注意を促したのでしょうか。
2:10b この者たちは厚かましく、わがままで、栄光ある人たちをののしって恐れませぬ。
- 当時、異端の彼らは、わがままで、栄光ある人たちをののしり、恐れを知らないといいました。それは不遜な態度です。その態度は、御使いたちの姿と比較されています。
2:11 御使いたちは勢いも力も彼らにまさっているのに、主の御前で彼らをそしって訴えたりしません。
- ペテロの手紙とかなり内容が重複している手紙に、ユダの手紙があります。ここでも同じようなことが書かれています。 **ユダの手紙**
1:8 それにもかかわらず、この人たちは同じように夢想にふけて、肉体を汚し、権威を認めず、栄光ある者たちをののしっています。
1:9 御使いのかしらミカエルは、モーセのからだについて悪魔と論じて言い争ったとき、ののしってさばきを宣言することはあえてせず、むしろ「主がおまえをとがめてくださるように」と言いました。
1:10 しかし、この人たちは自分が知りもしないことを悪く言い、わきまのない動物のように、本能で知るような事柄によって滅びるのです。
- ユダヤ人の言い伝えによれば、み使いの長であるミカエルでさえ、悪魔をののしることをせず、そのさばきを主に委ねたという伝承を紹介しています。もしそうであるならば、自分が知りもしない存在について軽々しく言葉を発してはならないという警告になります。
- この2つの手紙（ペテロの手紙、ユダの手紙）から分かることは、当時の異端者たちは霊の存在を取り上げて、自分なりの解釈を軽々しく述べるがあったということです。ですから、私たちも気をつけなければなりません。
- 霊能者と呼ばれる人たちには、あたかも自分は霊の存在を見抜いたり、追い払ったり、コントロールしたりすることができるかのように振る舞うことがあります。ペテロはそういった傲慢な態度を問題にしています。彼らは大胆不敵で尊大な者たちで、そういった霊的存在に対して軽々しく語り、恐れることを知りませぬ。
- 恐れを知らないということは、彼らが何も知らないからです。霊の力をコント

ロールしているように思い込んでいるのです。しかし実際は自分自身がその存在に利用され、支配され、コントロールされていることに気づいていません。つまり自分が見えてないという状態です。

『例 話』

- ・カトリック教援助活動団体「ミシオ」は、このほど魔術による迫害が世界41カ国で起こっていると発表しました。迷信を信じ人身供養と暴力によって、多数の犠牲者が危険な状態に置かれています。
- ・とくにカメルーン、ガーナ、マラウイでは人口の約4分の3は魔術信仰にかわりがあると言います。その他パプア・ニューギニア、コンゴ、インド、南アフリカでも魔術信仰が盛んです。
- ・歴史家ヴェルナー・チャッシャー氏（ドイツ・アーヘン）は、「ヨーロッパで過去約350年間に起こった魔術による迫害が、これらの国々では約60年間で起こった」、と語っています。パプア・ニューギニアでは、原住民は現在も魔術による習慣と儀式から離れられない状態が少なくありません。

- ・悪霊（異端とは異なる）は、ペテロの時代だけではありません。いいえ、終末が近づいてきた現代、猛威を振るっています。恐ろしいことです。
- ・そこで大切なことは、私たちはどう生きるべきであるかです。

2. 信仰の視点の置き所が大切

- ・ペテロは異端に支配されて人たちの姿は、彼らの生き方のうちに現れると述べています。

1) 異端者の姿勢

2:13 彼らは不義の報酬として損害を受けるのです。彼らは昼間から飲み騒ぐことを楽しみとしています。彼らはしみや傷であり、あなたがたと一緒に宴席に連なるとき、自分たちのだましごとにはふけるのです。

2:14 その目は姦淫に満ち、罪に飽くことがなく、心が定まらない人たちを誘惑し、心は貪欲で鍛えられています。彼らはのろいの子です。

- ・ここに彼らの特徴をあげることができましょう。

① 快樂を求める人たち

2:13 彼らは不義の報酬として損害を受けるのです。彼らは昼間から飲み騒ぐことを楽しみとしています。彼らはしみや傷であり、あなたがたと一緒に宴席に連なるとき、自分たちのだましごとにはふけるのです。

- ・昼は神のみわざを行う時ではありますが、（ヨハネ9：4）彼らはその大切な時に、飲んで騒ぎ、聖徒の愛の交わりではしみのような存在でした。

② 性的なことに執着する人たち

2:14 その目は姦淫に満ち、罪に飽くことがなく、心が定まらない人たちを誘惑し、心は貪欲で鍛えられています。彼らはのろいの子です。

- ・ イエスはこう言われました。マタイ福音書5章

5:28 しかし、わたしはあなたがたに言います。情欲を抱いて女を見る者はだれでも、心の中ですでに姦淫を犯したのです。

ペテロは性的なことに執着している人たちを、「のろいの子」と断定しています。のろいは祝福の正反対です。彼らは自分から神ののろいを招き滅亡の道に立っています。そればかりか、周囲の人たちにものろいを投げかける忌まわしい存在です。

2) 聖徒の姿勢

- ・ では、私たちはペテロの時代と変わらない今の時代、どう生きればよいでしょうか。パウロは聖徒の戦いについて、次のように述べました。

エペソ人の手紙6章

6:12 私たちの格闘は血肉に対するものではなく、支配、力、この暗闇の世界の支配者たち、また天上にいるもろもろの悪霊に対するものです。

6:13 ですから、邪悪な日に際して対抗できるように、また、一切を成し遂げて堅く立つことができるように、神のすべての武具を取りなさい。

6:14 そして、堅く立ちなさい。腰には真理の帯を締め、胸には正義の胸当てを着け、

6:15 足には平和の福音の備えをはきなさい。

6:16 これらすべての上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、悪い者が放つ火矢をすべて消すことができます。

6:17 救いのかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち神のことばを取りなさい。

- * ここに、私たち聖徒が生きる道があります。

- ・ 皆さん。私たちは忘れてはいけないことがあります。それは迷いやすく、正しい道から外れやすい羊のような存在であることです。羊飼いであるイエス・キリストから目を離すならば、簡単に道に迷う存在であることです。私たちを取り巻く社会はそれほど甘くはありません。悪の働きを見くびってはなりません。霊の働きを軽々しく考えてはならないのです。みことばは次のように勧めています。

- ・ ヘブル人への手紙12章

12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず

十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

- 私たちの主は偉大なお方です。私たちは弱く、迷いやすい者ですが、私たちの主は強く、豊かなお方です。

ま と め

主 題：「視点の置き所が大切」

—信仰の姿勢—

- 今日、私たちの主はお語りくださいました。今の時代は約2千年前のペテロが生きた時代と、それほど変わらない時代（悪の霊が聖徒を惑わしている）です。悪の霊は聖徒の目をくらませて、神の教えから離れさせようと誘惑をかけることができます。快樂を求め続ける人たち。性的なことに執着する人たちがいます。
- ペテロは、そこで信仰の視点の置き所が大切であります。私たちが目を留めるべきお方は、イエス・キリストのみです。たましいの良き牧者であるイエス・キリストから目を離すことが無いよう、注意し歩みましょう。 [へブル人への手紙](#)

12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。

* God bless you!